

9月1日は防災の日です。

1学期の終わりになりますが、7月17日（金）は本州に上陸した台風11号の影響で、神戸地域にも大雨・洪水・暴風・波浪・高潮の各警報が出される事態になりました。学校も臨時休校となり、鉄道が運行中止になったり、浸水家屋が出たりと、各方面で様々な被害が出ました。台風は接近が事前に予測され、対策を立てることができるにも関わらず、やはり自然の脅威の前には、人間はまだ無力であることを改めて思い知らされたように思いました。

以前に目を通した記事の中に、「防災」は、「防災」として特別なもののように捉えるのではなく、日々の暮らしの中で、自然に備えていくことが大切なのだ、と書かれているのを読んだことがあります。例えば、何気なく交わすご近所同士の挨拶ですが、毎日続けることでお互いのつながりが生み出され、震災で家が倒壊したときに「あの人がいない」と気付いてもらえたことでいち早く救助された、ということが実際にあったそうです。阪神淡路の震災でもそうでしたが、「災害は忘れたころにやってくる」ものです。どのような事態になろうとも最低限の用意は忘れずに、防災に対する意識を高めて毎日を過ごしたいものです。

明日9月2日（水）に、消防署や地域の防災福祉コミュニティとの共催で行う防災訓練を行います。この日は神戸の1・17とともに、防災全般について体験・学習する大切な時間を過ごすこととなります。初めに避難訓練を全校生で行い、その後に6年生を対象に防災訓練を行います。火災による煙体験、消火活動、救出搬送訓練などが予定されています。各訓練では星陵台ふれあいまちづくり協議会防犯防災部、苔谷公園コミュニティセンター、舞子台ホームの方々、垂水消防署の隊員の皆さんが、丁寧に指導にあたってくださいます。普段の生活の中では経験することのない内容だけに、子供達にもこの機会を活かして防災に対する意識をしっかりと高めてほしいと思います。

（防災担当 大西 英史）